

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」最終評価結果表

研究領域等	グローバル・イシューに対応した新たな地域研究の可能性の探索 －開発等に伴う環境問題
研究課題名	中央アジアにおける環境共生と日本の役割 －価値創造に基づく地域研究のあり方－
責任機関	慶應義塾大学
研究代表者	奥田 敦（総合政策学部・教授）
研究期間	平成19年度 ～ 平成21年度
主に研究対象とする国名	(タジキスタン) (ウズベキスタン) (カザフスタン)

総合評価

- () S. 所期の研究計画以上の取組が行われた。
 () A. 所期の研究計画と同等の取組が行われた。
 () B. 概ね所期の研究計画と同等の取組が行われたが、一部で当初計画以下の取組もみられた。
 (○) C. ある程度所期の研究計画と同等の取組が行われたが、当初計画以下の取組もみられた。
 () D. 所期の研究計画以下の取組であったが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられた。
 () E. 総じて所期の研究計画以下の取組であった。

[コメント]

国際的な場での論文や発表などを行い、また国際シンポジウムを組織し、地域を取り込んだガバナンスの問題や解決の方向を示し、水資源管理の重要性と将来の水資源市場の拡大の可能性をセミナーなどを通じて企業などに周知させた点、又、GISデータなどを利用した長期的な解析からアラル海流域の環境の変化が理解できた点などで一定の成果が見られる。

しかしながら、事業目的である「グローバル・ガバナンスとしてのアラル海流域問題への脱国家的なプラットフォームの構築」に関わる知見や政策提言が殆ど提示されず、また、学術上の目的として設定されていた「新たな地域研究の創造」についても、特筆すべきものは見受けられない。

冬季発電による過度の放水はキルギスタンで顕著であり、貯水池の建設などの対策はカザフスタンの方が進んでいるなど、両国の調査がやはり必要であった。

本研究課題のテーマについて大規模な支援事業や研究を行っている世界銀行や日本のJBICについての言及が見受けられず、また、中央アジアの水資源管理の殆どのインフラの建設に関わったロシア・ウクライナ等の旧ソ連関係者からの十分な聞き取りを行ったのかどうかについて明確ではないなど、現状の改善策としての有効性について、検討・評価する材料が提示されていない。

項目ごとの評価

1. 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されたか。

- A. 十分実施された B. 概ね実施された
 C. ある程度実施された D. あまり実施されなかった
 E. 実施されなかった

[コメント]

必要分野の専門家を結集し、広い知見に基づいて、中央アジア諸国の価値観、ガバナンスが抱える問題点、解決の方向について仮説を提示しているが、これまでも諸方で指摘されてきたことであり、本研究課題は入口に到達しただけに止まっているように見受けられる。

また、それぞれの研究チーム間の関連性、総合性を確保するための調整があまり見受けられず、GISデータによる環境分析、制度分析などについても、地域研究としての十分な総合化が行われていない。

研究成果として「全流域国が参加する流域協議機構」の創設が提言されているが、これは既に様々な政府や国際機関等が提言してきたことであり、本研究課題としては、それ以上に踏み込んだ知見の提示を行うべきであった。

2. 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されたか(研究の過程)。

- A. 十分実施された B. 概ね実施された
 C. ある程度実施された D. あまり実施されなかった
 E. 実施されなかった

[コメント]

本研究課題の枠内で、人間の安全保障の確保、アラル海問題克服のための支援に関する論文が公表されていることは、研究成果としてある程度評価できる。

また、2009年8月にはウズベキスタンとの共催により国際シンポジウムを開催し、研究者や外交関係者ばかりでなく、企業関係者も一堂に集めて、中央アジアにおける水資源管理事業の重要性、市場としての可能性を認識させることができ、かなりのPR効果をあげたものと評価できる。

しかしながら、ウズベキスタン、タジキスタンへの出張調査ではヒアリングが主となっており、灌漑・排水施設の実地調査を行っておらず、十分であるとは言い難い。

3. 社会的・政策的にニーズに応える研究成果が創出されたか。

- A. 十分創出された B. 概ね創出された
 C. ある程度創出された D. あまり創出されなかった
 E. 創出されなかった

[コメント]

アラル海水資源問題について、必要分野の専門家を集め広い知見に基づいて、中央アジア諸国の価値観、ガバナンスが抱える問題点、解決の方向についてさまざまな視点を提示・発表した。

しかしながら、公開シンポジウムの成果物の提出がなく、また、本研究課題の成果物として提示された論文の一部は本研究課題との関連が不明確である等、研究課題の成果が総合的なパッケージとして示されていない。

水資源問題については、カザフスタン、キルギスタンまで包括した国際的解決方法について、更なる具体的な方策の提言が必要であり、このままでは政策的な提言として有効に活用することは困難である。

4. 学術的に高い水準が確保されているか。

- A. 十分確保されている B. 概ね確保されている
 C. ある程度確保されている D. あまり確保されていない
 E. 確保されていない

[コメント]

本研究課題の成果物である「タジキスタンの水資源政策にみるアラル海流域問題—ソ連からの制度的遺産とエネルギーとしての水資源—」、及び「長期水文・気象データおよび衛星データを用いたアラル海流域における水循環の解析」は、専門分野の研究としては十分な水準にあると評価できる。

しかしながら、アラル海をはじめ中央アジアの水資源問題について多くの支援事業や研究を行っている世界銀行、JBICなどへの十分な言及がないため、1990年代には既に提示されていた問題などを「再発見」している箇所も見受けられ、既存研究の精査が十分であるとは言い難い。

また、論文の公刊が十分であるとは言えず、研究成果として挙げられた論文の中には、本研究課題との関係が希薄なものが含まれているように見受けられる。